

ユーカラの世界

アイヌ復権の原点

新谷 行

角川書店

ユーカラの世界

アイヌ復権の原点

新谷 行

角川書店

ユークラの世界^{せかい}
——アイヌ復権の原点——
新谷行

昭和49年1月15日 初版発行

発行者 角川源義

印刷所 新興印刷

製本所 宮田製本

発行所 角川書店

東京都千代田区富士見2-13

郵便番号 102 振替 195208

電話東京265-7111(大代表)

0095-884029-0946(0)

Printed in Japan 落丁・乱丁本はお取替します

序詩 シララの歌

トトマイノ水ハ透キトオリ

透キトオッタ河ノホトリデ

オレハ シララニ 恋ヲシタ

シララハ 樵ノオトノ娘

オトガ山へ行ッタトキ

シララハ 一匹ノ

白イ魚ニ姿ヲ変エ

オレノ心ヲ誘ッタ

オレガ河へ飛び込ムト

シララハ 顔ヲ赤ラメテ言ツタ

「オトコノ入ッタ河ハイヤ！」

ダカラ オレハ

イツモ河原ニ座ッテ

シララノカラダガ

シナヤカニノビ

アザヤカニ

水ヲ切ルノヲ 眺メテイタノダ

月ノ夜 オレハ シララト二人デ

河蟹ヲ捕ツタ

ヤスデ 蟹ノ背中ヲ突キ

岸ヘ投ゲタ

シララハ 小サナ手デ蟹ヲ受ケトメ

焚火デ焼イタ

焰ハ イッソウアザヤカニ

シララノカラダヲ

水ニ映シ

トトマイノ河辺デ 二人ハ

タガイニ 抱キ合ッタ

ダガ アル日

シララハ 死ンダ

青イ羽ノアル虫ガ

シララノカラダノ中ニ入り込ミ

シララヲ 食イ殺シタノダ

オレハ ヨゴミノ葉デ

死ンダシララノカラダヲ拭イタ

シララハ トトマイノ河ノ水ヨリモ

モット透キトオリ

透キトオッタ

カラダガ イタルトコロ

紫色ニ腫レ上ガッテイタ

オレハ 死ンダシララ

トトマイノ河へ流シタ

流レノ速イトトマイハ

シララヲ海ヘドンドン運ンデユク

オレンジ色ニ光ル

波間ヲヌツテ

シララハ 生キテイルヨウニ

アザヤカニ

沖へ泳イデイッタ

ソシテ オレハ見た

水平線ノ上カラ

一羽ノ

淡ムラサキノ鳥ニナッテ

シララガ 飛ビ立ッテユクノヲ――

赤ク爛レタ

明方ノ空へ向カッテ

輪ヲエガキ

輪ヲエガキ

消エテイッタ

(詩集「シララの歌」より)

ユーカラの世界
目次

序章 ユーカラの現代的意味

第一章 アイヌの自然観

一 人間とカムイの交流における歌

(1) ユーカラの原点

(2) カムイとコタンの共通語

(3) 生命への愛しみ

(4) カムイに対する戒めの歌

二 教訓として尊ばれた神謡

(1) 自然の番人小オキキリムイ

(2) 獲物に宿るカムイ

三 自然に対する畏怖の歌

(1) 孤児を育てた郭公鳥の神謡

(2) 生きている山と川

一五 三七 三七 四三 四七 四九 五三 五五 五七 五九 六一 六三 六五 六七 六九 七一 七三 七五 七七 七九 八一 八三 八五 八七 八九 九一 九三 九五 九七 九九

(3) 呪文から歌へ

四 狩りに対する祈願と反復

(1) 知里氏の呪術的仮装舞踊劇説

(2) ある熊神の物語

(3) 獲物の再生を願う心理

第二章 アイヌの人々に信じられた人祖神

一 人文神謡の世界

(1) オイナとは

(2) 人祖神アイヌラックルの出生

(3) 結婚説話の意味

(4) 農耕を教えたアイヌラックル

二 人文神謡の背景

(1) アイヌラックルの正体

(2) アイヌの呪術・江戸時代の記録から

(3) 巫女の神秘体験

(4) ポロシリ岳の霊場

三 シャーマニズム神謡の表出

(1) 巫者とオイナクル

五

六

六

七

七

七

七

七

七

九

一〇

一〇

一〇

一三

二二

二六

二六

三〇

三〇

(2) 巫女の託宣の歌

(3) シャーマンの特性

四 アイヌラックルの他界遍歴

(1) 天界の神々との戦い

(2) アイヌラックルの冥界行き

(3) アイヌの他界観

(4) アイヌラックルの蘇生の意味

第三章 アイヌ民族の戦士ポイヤウンペ

一 宝刀の名曲「クドネシリカ」

(1) 三種の「クドネシリカ」

(2) 戦いの発端

(3) オマンベシカの戦い

(4) 宝刀の憑神の威力

(5) 五臓六腑の裂き合いの勝負

(6) 巫女の戦いとポイヤウンペの恋情

二 民衆情念の象徴ポイヤウンペ

(1) ユーカラの特徴

(2) ポイヤウンペとは

一五

一四

一三

一二

一一

一〇

九

八

七

六

五

四

三

二

一

〇

一六

一五

一四

(3) ポイヤウンベの属性 一八七

(4) ヤウンクルの窮地を救う英雄 一九二

三 ポイヤウンベ誕生の背景 一九六

(1) ヤウンタル対オホーツク文化人 一九六

(2) 大和国家の北辺侵略との関係 一九九

第四章 和人の蝦夷地侵入とユーカラ 二〇五

一 義経入夷伝説の意味 二〇五

二 渡島半島におけるコシャマインの抵抗 二一〇

(1) 十二の館とアイヌの鬱積 二一〇

(2) コシャマインの蜂起とその後の抵抗 二二三

(3) アイヌ制圧策ウイマム 二二七

(4) バナンベの陰基松前に達す 二二九

三 シャクシャインの戦いとユーカラ 二三三

(1) シャクシャイン蜂起の背景 二三三

(2) シャクシャインによるユーカラの戦い 二三六

(3) ホロベツに残った和人への抵抗の歌 二四〇

四 ノツカマブの惨劇とアイヌの怨歌 二四四

(1) 国後蜂起と御味方アイヌ 二四四

(2) 怨花ヤエレンシカレ

二五三

(3) 死者たちの訴えつづけるもの

二五四

第五章 ユーカラの精神とアイヌの復権

二七三

一 皇民化教育の強制とユーカラ

二七三

(1) 同化政策の本質

二七三

(2) 天皇という擬制カリスマの強制

二七七

二 アイヌ学者たちとアイヌ研究

二八〇

三 金田一ユーカラ「実感の科学」への疑問

二八九

四 ユーカラ精神の再生のために

二九七

あとがき

三〇六

装幀 門田ヒロ嗣

ユーカラの世界

——アイヌ復権の原点——

